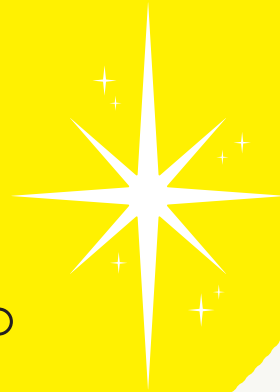


男女共同参画の視点からの“キャリア教育”

自分らしく  
輝いて  
生きる。



## 指導の手引き

▶ 本ブックレットのねらい/ 「生徒用ブックレット」について/「指導の手引き」について	2
▶ クイズ編・データ編について	4
▶ ロールモデル編①・②について	6
▶ ロールモデル編②【コラム】について	8
▶ ロールモデル編③について	10
▶ ロールモデル編④について	12
▶ ロールモデル編⑤について	14
▶ すべてのロールモデルを用いた指導例	16
▶ 【資料】ワークシート	17
▶ 【参考】本ブックレットを用いた模擬授業	18

# 本ブックレットのねらい

**男** 女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」(男女共同参画社会基本法第2条)です。

教育基本法第2条第3号においても、教育の目標として、「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展

## ▶「生徒用ブックレット」について

「生徒用ブックレット」は、「クイズ編」「データ編」「ロールモデル編」で構成しています。「クイズ編」および「データ編」で社会の現状に目を向け、続く「ロールモデル編」では、そのような現状にあって、自分らしい生き方を選択し、実現している人たちを紹介します。以下、「ロールモデル編」の構成上のポイントを説明します。

### ロールモデルインタビュー

本ブックレットで取り上げるロールモデルは全部で6名(女性3名、男性3名)です(コラム含む)。それぞれ、男性の多い職場で働く女性、女性の多い職場で働く男性、介護と仕事を両立しながら働く男性、管理職として働く女性、育児休業を取り、育児と地域活動に取り組む男性、地域で活躍する女性という観点から取り上げています。

どの生き方が正解ということではなく、様々なロール

モデルの生き方に触れることを通じて、生徒が自身の進路選択における選択肢の多様さについて考えるきっかけとしてください。また、異性のロールモデルについても、将来の家族や職場の上司・同僚・部下が異性であることを想像し、異性としての考えや行動を考えるものとして活用してください。

**土木業界で活躍する女性。**



**土木業界で自分らしく働く。**

松枝 麗りきさん、27歳、土木建築会社、営業職

「夢を叶えるために理系へ、男性が多いことに違和感はありませんでした。」

「リケジョ」って、どんな女性?

**私**

「仕事に子育て、将来やりたいと思っていたことが実現できて、うれしいです。」

「上場の方に聞きました。」

「脱サラの人生のターニングポイント」



### コラム

ロールモデルと関連するコラムです。ロールモデルの生き方の背景にある社会状況や関連トピックを取り上げ、解説しています。

### 人生のターニングポイント

ロールモデルのそれまでの人生における主要な出来事、進路選択の岐路に立つ契機になった出来事を示しています。

に寄与する態度を養うこと。」とされています。また、同法に基づき策定された第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)には、現代的・社会的な課題等に対応した学習の推進のための主な取組の一つとして、「男女共同参画社会の形成の促進」についての学習機会の充実が明記されています。

高等学校学習指導要領(平成21年3月9日告示)では、将来、社会の一員として活躍する高校生たちが男女共同参画社会を実現していくために、“男女が共同して社会に参画することの重要性”

や“男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性”等について考えさせるよう求められています。

本ブックレットでは、様々な生き方を選択し、実現している男女6名のロールモデルを取り上げました。生徒たちが視野を広く持ち、男女ともに多様な選択肢の中から自らの生き方を考えるきっかけとなるよう、授業等において本資料を活用してください。

## ▶「指導の手引き」について

「指導の手引き」は、生徒用ブックレットを授業でどのように活用すればよいかを解説したガイドブックです。ブックレットの内容解説、補足データ、授業を行う際の参考の一例としての指導例などで構成しています。

また、参考資料として、授業で使用できるワークシートの例、およびブックレットを用いた模擬授業の実践例も掲載しています。

### 解説

生徒用ブックレットで取り上げたインタビュー記事や各種データについて、掲載のねらい、背景にある社会状況などを、補足データ等も織り交ぜながら解説しています。

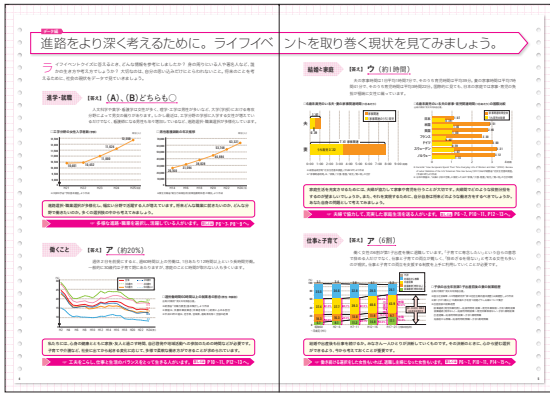
### 全体構想について

指導例として提示した單元において、どのように学習活動を展開していくかを示しています。●は「本時のねらい」「本時の展開」の該当する活動です。

### 指導例

生徒用ブックレットを用いた具体的な指導例を紹介します。「教科・単元」「ねらい」「展開例」などで構成しています。ここで掲載しているのはあくまでも一例であり、学校の特徴を考慮し、他の教科等や単元で取り上げることも可能です。

なお、16ページでは、すべてのロールモデルを用いた指導例を紹介しています。



# クイズ編・データ編 について

生徒用ブックレット 3ページ～5ページ

## 解説

高校卒業後、生徒たちはどんなライフイベントに直面するのか。これからの長い人生を俯瞰して眺められるように、「進学・就職」「働くこと」「結婚と家庭」「仕事と子育て」の 카테고리別に、クイズと解答を示しています。データ編

では、ライフイベントにおいて乗り越えるべき社会の課題をデータとともに提示することで、生徒たちを取り巻く社会の現状と課題について理解を深めることをねらいとしています。

また、関連するロールモデルのページ

も記載しています。上記の課題を自分自身にかかわりのあるものにとらえ、課題の解決策を検討する活動を通じて、より主体的な進路・職業選択ができるようになることを目指しています。

### ●掲載データについて

#### 進学・就職

- ・工学分野の女性入学者数(学部)
- ・男性看護師数の年次推移

左のグラフでは、大学(学部)の専攻分野において、工学分野に入学する女性が増加傾向にあることを示しています。また右のグラフでは、男性の看護師が増加傾向にあることを示しています。二つのデータを通じて、進学や就職における男

女の偏りが徐々に解消傾向にあることを紹介します。将来を考える際に、固定的な性別役割分担意識にとらわれる必要はなく、自分が本当にやりたい方向に進路選択することが重要であることを伝えます。

#### 働くこと

- ・週労働時間60時間以上の就業者の割合(男性・年齢別)

長時間労働をする人は減少傾向にあるものの、いまだに高い割合です。ここでは特に、男性の長時間労働者が多く存在することが、夫婦における家事・育児の分担にも影響をおよぼしていることへの

理解を目的としています。また、「ワーク・ライフ・バランス」の概念を提示し、人生を充実させるためには、仕事以外の時間の確保も重要であるという考え方を伝えます。

#### 結婚と家庭

- ・6歳未満児のいる夫・妻の家事関連時間(1日あたり)
- ・6歳未満児のいる夫の家事・育児関連時間(1日あたり)の国際比較

左のグラフでは、夫婦における家事関連時間を比較し、夫の家事関連時間が極端に短い日本の現状を伝えます。さらに、右のグラフでは夫の家事・育児関連時間を国際比較し、欧米では男性の家事・育

児への参画が進んでいる現状について紹介します。欧米では、男性の家事・育児への参画が進むことにより、女性の社会参画が進み、管理職の女性の割合も高い傾向にあることを伝えます。

#### 仕事と子育て

- ・子供の出生年別第1子出産前後の妻の就業経歴

グラフから、第1子出産後に退職した女性の割合がわかります。ここでは、半数以上の女性が出産を機に仕事を辞めているというデータから、仕事と子育ての両立実現における課題を認識することを

目的としています。また、「仕事と子育ての両立のための制度例」を紹介し、制度を上手に利用することが、課題の一つの解決策であることを伝えます。

## 指導例

### 家庭総合：ライフイベントクイズを活用して、生涯の生活設計を立てさせる

- 生活設計の立案を通して、将来の自己の生活について様々な角度から考えさせる。

## 全体構想

### 【生涯を見通した自己の生活設計】

- 生活設計とは何かについて概説する。(1時間)
  - ◎生徒自身の希望するライフコース表を作成させ、理想とする著名人のライフコースをたどらせるなど、生活設計を具体的に考えさせる。(1時間)
  - ◎各種データをもとに、固定的な性別役割分担意識にとらわれないことが、一人ひとりの生き方を大切にすることにつながることへの理解を促す。(2時間)
- ※「家庭総合」の学習の総まとめとして扱うことも考えられる。

## 本時のねらい

性別にとらわれすぎた生き方をイメージしていないかということに気づかせるとともに、進学・就職、結婚と家庭、仕事と子育てなどについて、日本の現状をデータを通して理解させる。

## 本時の展開

生徒全員に生徒用ブックレットを配布している場合を想定

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項(○)と評価(☆)
導入 (5分)	①ライフイベントクイズに答える。	○生徒に挙手させて、その人数を板書する。どうしてそのように考えたのか、その理由を男女それぞれの生徒に答えさせる。 (付箋紙などを使って考えをまとめさせても良い。)
展開 (40分)	②答え合わせをする。 ③現状を正確に理解する。 ④自分が現在の社会状況を的確にとらえていたかどうかについて考える。 ⑤各問について、どうしてそのような状況になっているのか、理由を考える。	○資料を読ませて、近年の傾向や、諸外国との比較から我が国の現状を理解させる。 ○クイズの結果について、感想を発表させる。 ○長時間労働、夫の家事時間、働く女性の第1子出産を機とした退職について、グループごとに理由を考えさせ、発表させる。自由に討論させてもよい。
まとめ (5分)	⑥ワーク・ライフ・バランスの意味や、その意義を理解する。	○今後の生活設計の学習の導入とする。 ☆自己の生活設計に大いにかかわるものとして現在の社会状況を理解しようとする態度が身につけているかを評価する。

## 授業の発展

【データ編】で取り上げている各種データについて、生徒の理解度に応じて解説を加えたり、発展学習につなげたりする方法もある。

<工学分野の女性入学者数(学部)グラフ>

⇒将来の進路選択を見越し、教師が各専攻分野について解説したり、各分野の学びについて調べ学習を行ったりすることも考えられる。

<週労働時間60時間以上の就業者の割合(男性・年齢別)グラフ>

⇒「週60時間以上」「1日12時間以上」という労働時間が実感できない生徒もいるかもしれない。家族など周囲の人を参考にしながら、1日のタイムテーブルを作成し、長時間労働が日常生活に与えるインパクトについて視覚的に実感するという方法も考えられる。